

私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 4 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
教育専門系グループ運営委員会 議事録 (案)

日 時：平成 21 (2009) 年 12 月 14 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00

会 場：私立大学情報教育協会事務局会議室

出席者：運営委員：難波、三尾 (司会)、竹熊 (TV 会議参加：議事録係)

事務局：井端事務局長、森下、(恩田)

1 情報教育の今後の検討内容について

- ① 到達目標 について、2 つ程度を設定する。技能については「リテラシー」に任せても良い
- ② 到達度
- ③ 教育内容
- ④ 教育方法 ③と④については、ひとつにしてしまっても良い
- ⑤ 到達度確認の測定手段

少なくとも①と②について、本日素案決めたい (その後、メールのやりとり等で修正を加えたい)

2 各委員からの宿題の発表

各委員それぞれの宿題について説明を行った。

最後に三尾委員が作成した表の教育学における学士力についての 4 つの到達目標毎にどのような情報活用力が考えられるのか、「知識理解・情報倫理 (以下 A と表記)」と「ICT 操作技能 (以下 B と表記)」の 2 点を中心に表を作成することになった。なお、表の右側にある 3 項目、「問題発見・解析の能力」、「インターネットコミュニケーション能力」、「プレゼンテーションの能力」は適宜、A、B に挿入することとした。

3 教育学における情報教育の到達目標についての検討

到達目標 1 について

A：文献等複写や引用時に著作権などへの適切な配慮ができる。

ディスカッション等において発信者としてのマナーが適切である

B：文献検索に関する DB の操作ができる。

自身が求める文献を検索する①キーワードを思いつき、②適切な論文・資料を選択できる
文書作成やアプリが使用でき論文形式の文書が作成できる。

(辞書・事典を活用できる)

到達目標 2 について

A 実践記録の際に人権に配慮できる

B 実践記録を行う際、IC 機器を用いて記録できる。

自身の学びで集めたり作成したりした情報を適切に管理 (ポートフォリオ等) できる

レジュメ、プレゼンテーションスライドなどを適切に作成できる

聴衆などの関心を高め、効果的なプレゼンテーションができる

プレゼンターに対して教育的配慮のある指摘ができる。

自分が集めた統計結果について、データを入力、集計、分析し、その結果を批判的に見る事ができる

到達目標 3 について

A 教育に関する時事問題について情報を収集し、整理し、分析できる

B 文献資料やニュース等のネット上の情報資源にアクセスでき、収集できる

収集した資料について出典と真贋を見極めることができる

他者の意見と自己の意見を明確に区分できる

自分が集めた統計結果について、データを入力、集計、分析し、その結果を批判的に見ることができる（再掲）
（モバイル環境の功罪を理解し、指導できる）
（これからは子ども達とのメールのやりとりも必要では？）

到達目標4について

- A 情報社会における教育（学校教育、生涯学習等）の意義について関心を持っている。
- B 自身の学習履歴を振り返り、他者の意見を受け入れ、（卒業後を想定した）ポートフォリオを完成させる

4 議論のまとめと次回への課題

以上の素案が出された後、教育学としての情報活用力の到達目標をAからひとつ、Bからひとつというように、2つ選び、提示して欲しい旨要望が出された。

Aをまとめたものを到達目標とし、Bとして提示したものを到達度として提示してはどうか、との意見が出された。

到達目標1【知識理解・活用（情報倫理含む）】

著作権や人権に配慮しながら（ICTを活用しつつ）文献等を複写・引用し、実践記録を作成できる。

到達目標2【技能】

情報社会における教育の意義（やユビキタス社会の功罪）を理解した上で、教育問題についての情報を適切に収集し、整理し、分析できる

しかし、この時点でタイム・アップとなり、到達目標を具体的に提示できなかつたため、三尾委員が今回の議論を踏まえた表を完成させ、それを元に、再度検討することとなった。

次回会合は2010年2月1日（月）15:00～17:00 私学協会にて行われる予定である。

3. 配布資料

- （1）平成21年度第3回CCC教育専門計グループ運営委員会議事録(案)
- （2）分野別教育「学士力考察」の報告・提言について
- （3）分野別教育における情報教育の検討について（宿題の提示）
- （4）各委員より宿題の提出

以上